

愛知縣勸業雜誌

後第...
至第...

14.1イ-23
14.1イ
23
1200701598087

東 京 國 書 館					
冊	号	架	函	屬	類
	61	65	111		



始

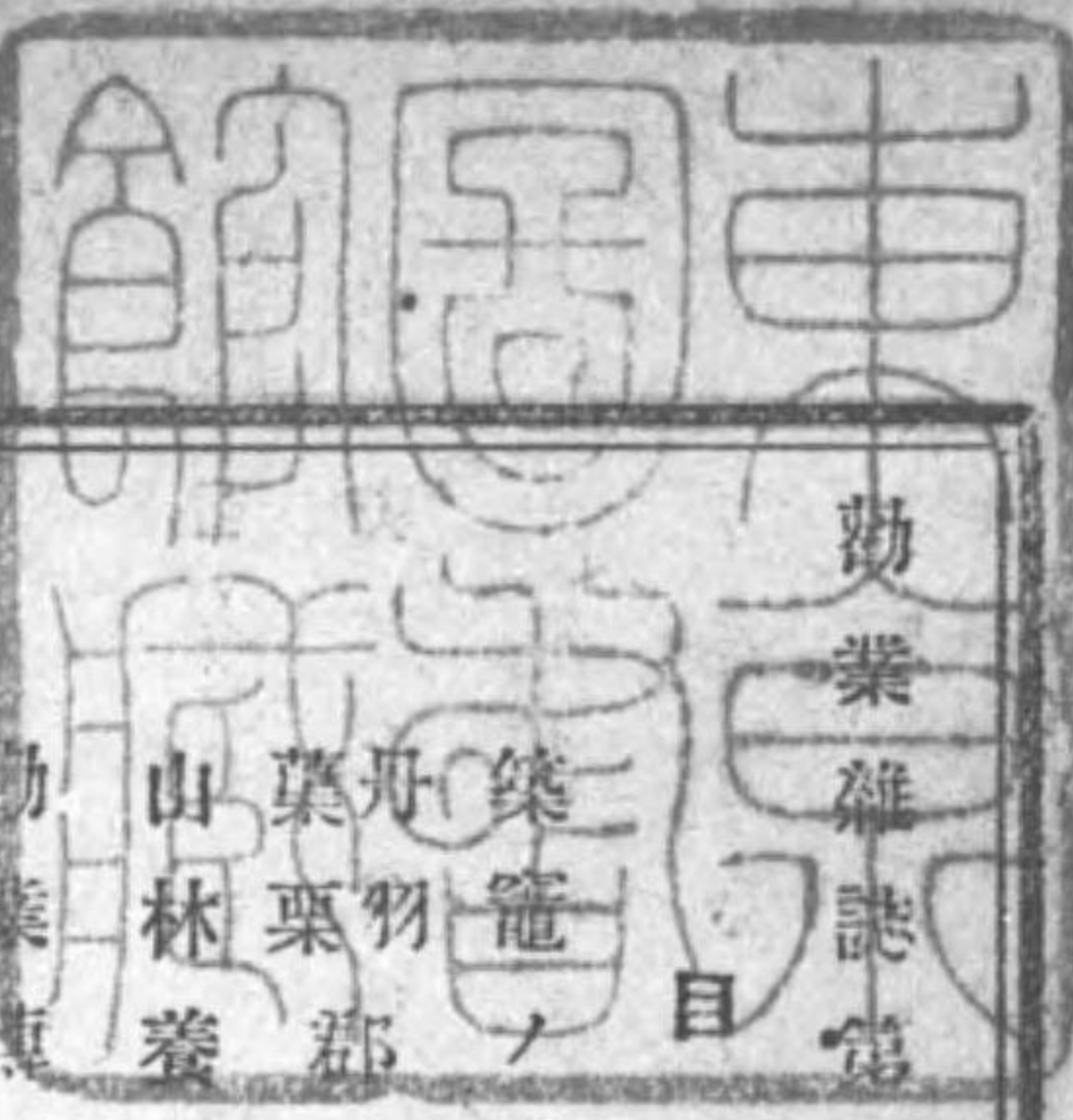


明治十五年五月

愛知縣勸業雜誌

第三號

勸業課印行



勸業雜誌 第三號

目次

築窠ノ改良

丹羽郡 共進會概況

山梨縣 植法

勸業博覽會報告

蟲類名稱

稻刈採季節

築窠ノ改良

輓近山林荒蕪薪炭減損而シテ百工日ニ開ク用需月ニ加フ
今ニシテ之ガ備ヘテ爲サズンバ終ニ薪炭ノ缺乏ヲ來スハ
勢ノ免レザル所ナリ然レバ固ヨリ山林繁殖ノ法ヲ設クル

従前竈	四時	十石四尺	六石六斗余	四拾八貫目
改良竈	全	全	全	四十貫目

但従前竈ノ薪量ハ火夫精々注意節減シタルモノニシテ若シ之ヲ怠ルトキハ動モスレバ六拾貫目或ハ七十貫目ヲ消費スルニ至ル改良竈ノ構造ニ於テハ火夫別ニ注意ヲ要スヘキナクシテ此ノ如シ加之次竈ニ餘カチ與ヘ四此間中ニ次竈三尺六寸ノ釜四石貳斗余ノ水量百九十九度ノ温熱ニ進ミタリ此熱度ヲ要スル薪量ヲ計ル片ハ凡ソ二十貫目ニ當ラン而シテ又構造堅牢毫モ危険ヲ恐レナク甚ダ便利ナルヲ覺ク

間瀬平右衛門讓酒竈試驗表

竈區別 蒸米石數 薪量

従前	竈	三時五拾分	拾	石七拾	貫目
改良	竈	三時	拾	石四拾	貫目

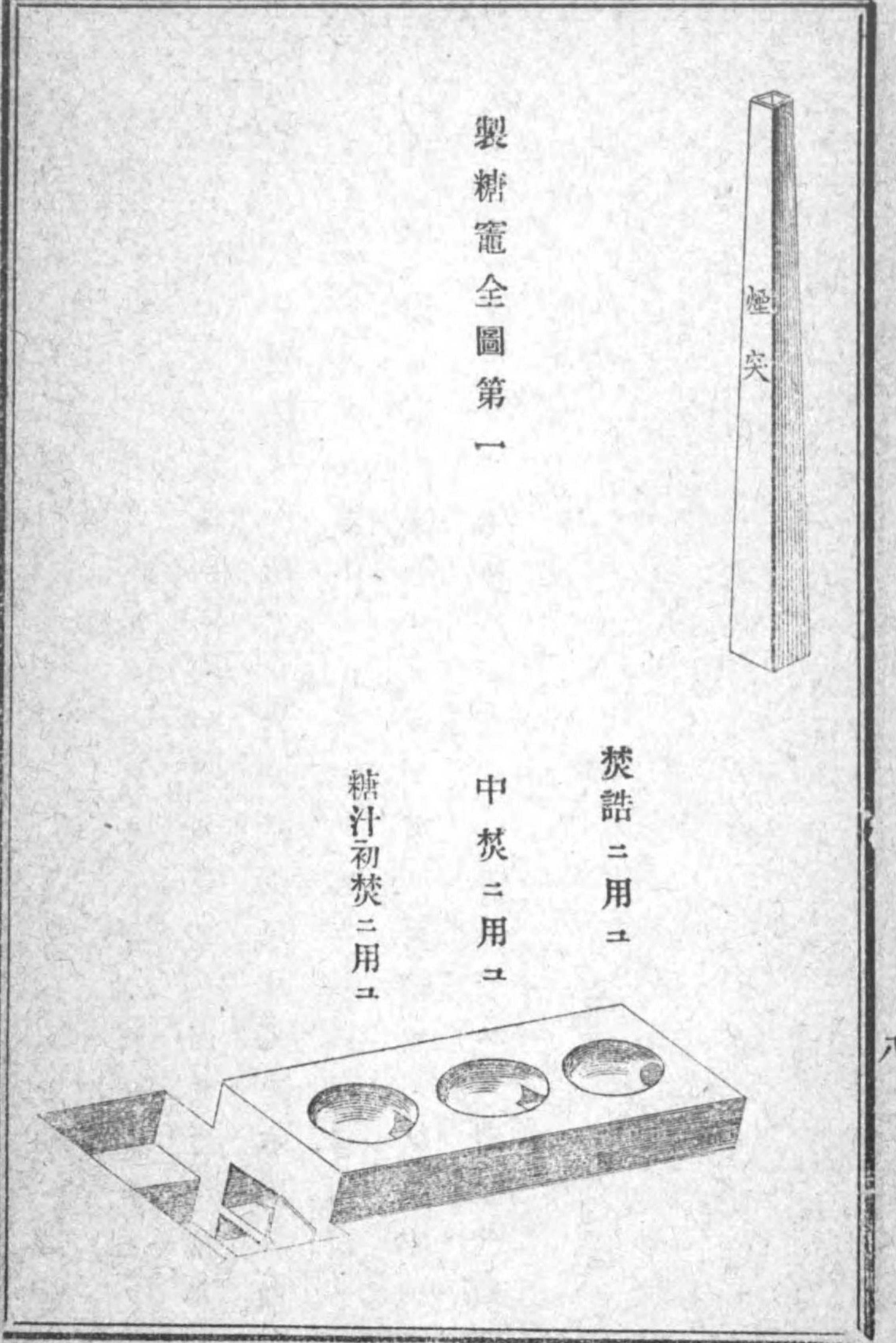
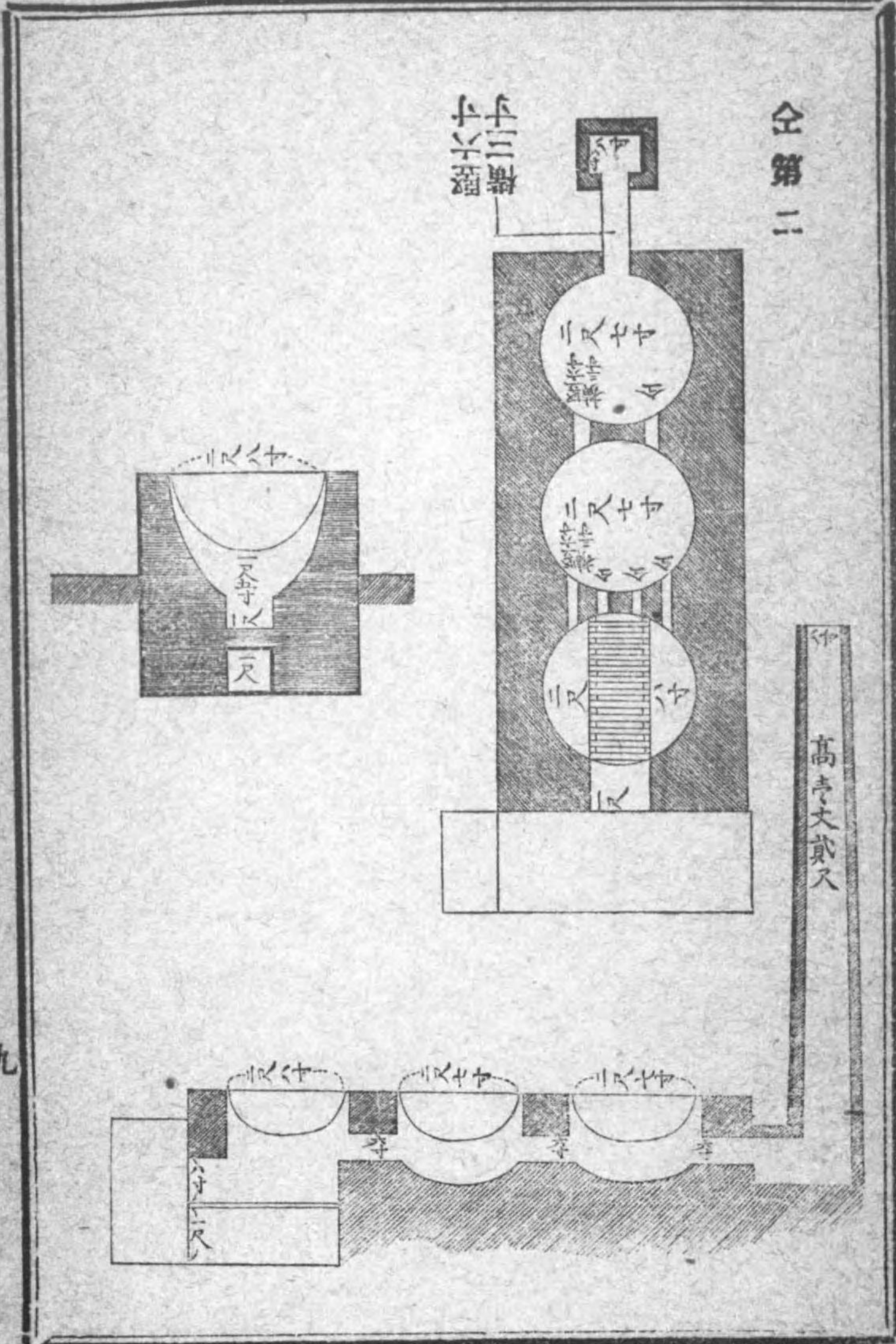
但間瀬平右衛門ハ夙ニ築竈改良ヲ企テタルモノナリ昨十四年出京ノ際東京銀坐街ニ住スル服部長七ナルモノ自家日用竈ヲ洋風ニ模造シ其利アルヲ聞キ速ニ長七ヲ訪ヒ新竈ノ實驗スル所ヲ問ヒ益々改良ノ功空シカラサルヲ信シ便チ自箇ノ素志ヲ告ケ讓酒竈改良ノ事ヲ托シ長七ヲ知多郡ニ聘シ改良竈建築ニ着手ス此際遇々宇都宮技長ノ教ニ據リ瀬戸陶窯ノ改良ヲ圖ルヲ聞キ更ニ良法ヲ得ンヲ欲シ造酒竈改良法ヲ本課ヘ問合セリ此ニ於テ技長ヨリ改竈法ノ口授ヲ受ケタル本課員佐野政長ヲ派遣セシム政長長七ト協議シ

以テ建築ヲ終ユ此竈ハ次竈ニ換ユルニ漆灰ニテ水量
 五石入りノ湯函ヲ設ケ湯函ノ内へ烟筒ヲ此圖□ノ如
 ク通セシム此五石ノ水量三時間ニ熱度百五十度ニ進
 ミタリ此熱度ヲ薪量ニ計レハ凡ソ拾五貫目ニ當ラン
 且亦烟筒へ捻鎖ヲ施シ火力ノ過不足ニ應シ此捻鎖ヲ
 轉廻開閉シ以テ火力ヲ竈中ニ保タシム

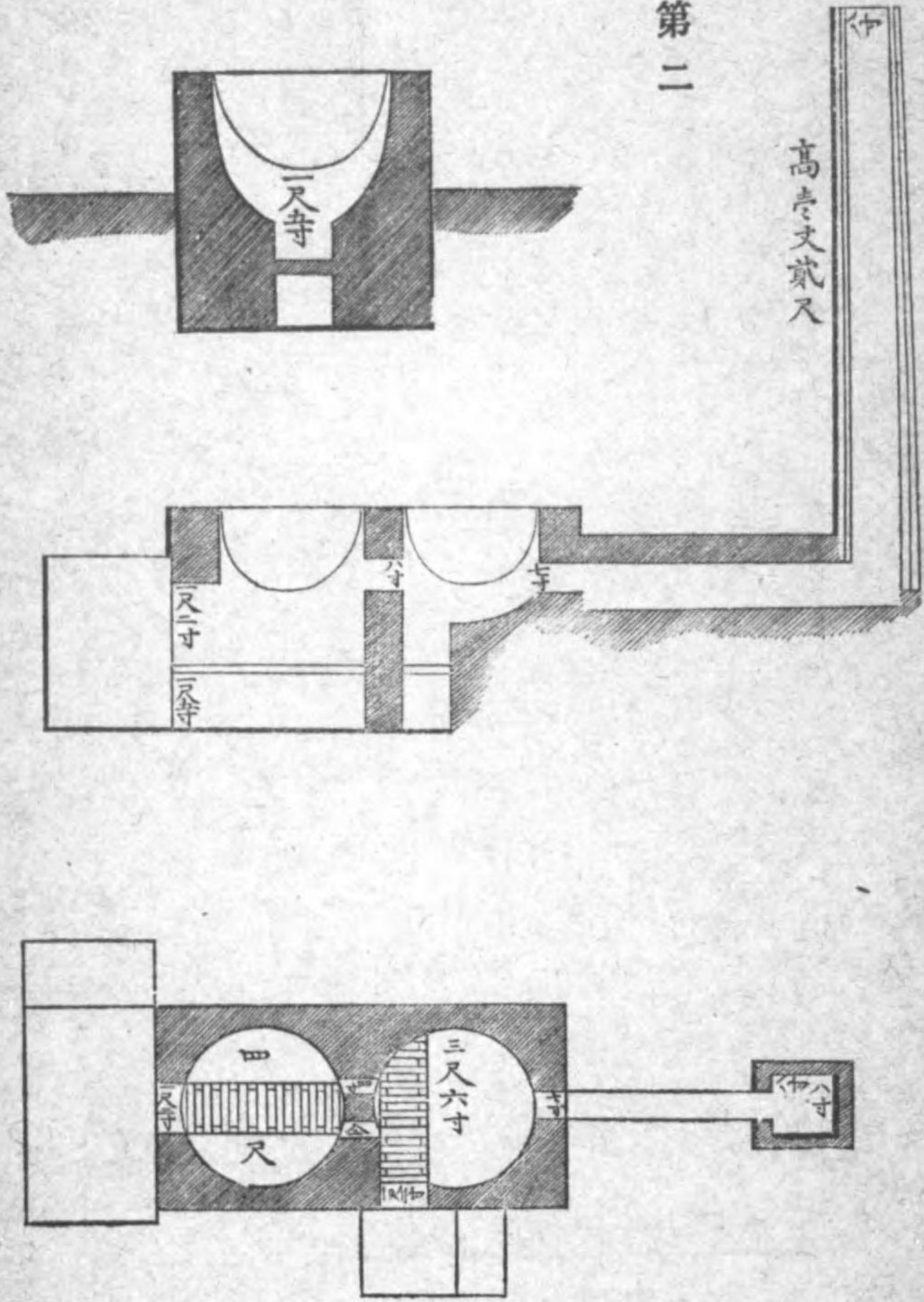
日用竈試驗表

竈區別	水量	薪量	熱量
從前竈	五百目	六十目	沸騰
改良本竈	五百目	四十目	沸騰
改良次竈	三百目	〇	進度四十度

但凡テ竈ノ構造其法ニ適スレバ前表ニ示ス如ク薪量
 ナ減スルモノナレ其適度ヲ失フキハ利益少ナキノ
 ミナラズ却テ意外ニ不利ヲ招クアリ因テ之ヲ築カ
 ント欲シ疑議スル所アレバ郡區役所ヲ經テ本課へ問
 合スベシ自カラ指示スル所アラントス且亦日用竈ノ
 如キモ從前竈ヲ修築セヨリ寧ロ新築スルノ堅牢ナ
 ルニ知カザラノ通常人家五六ヶ月減省スル薪量代價
 ヲ以其費ニ充ヘシ

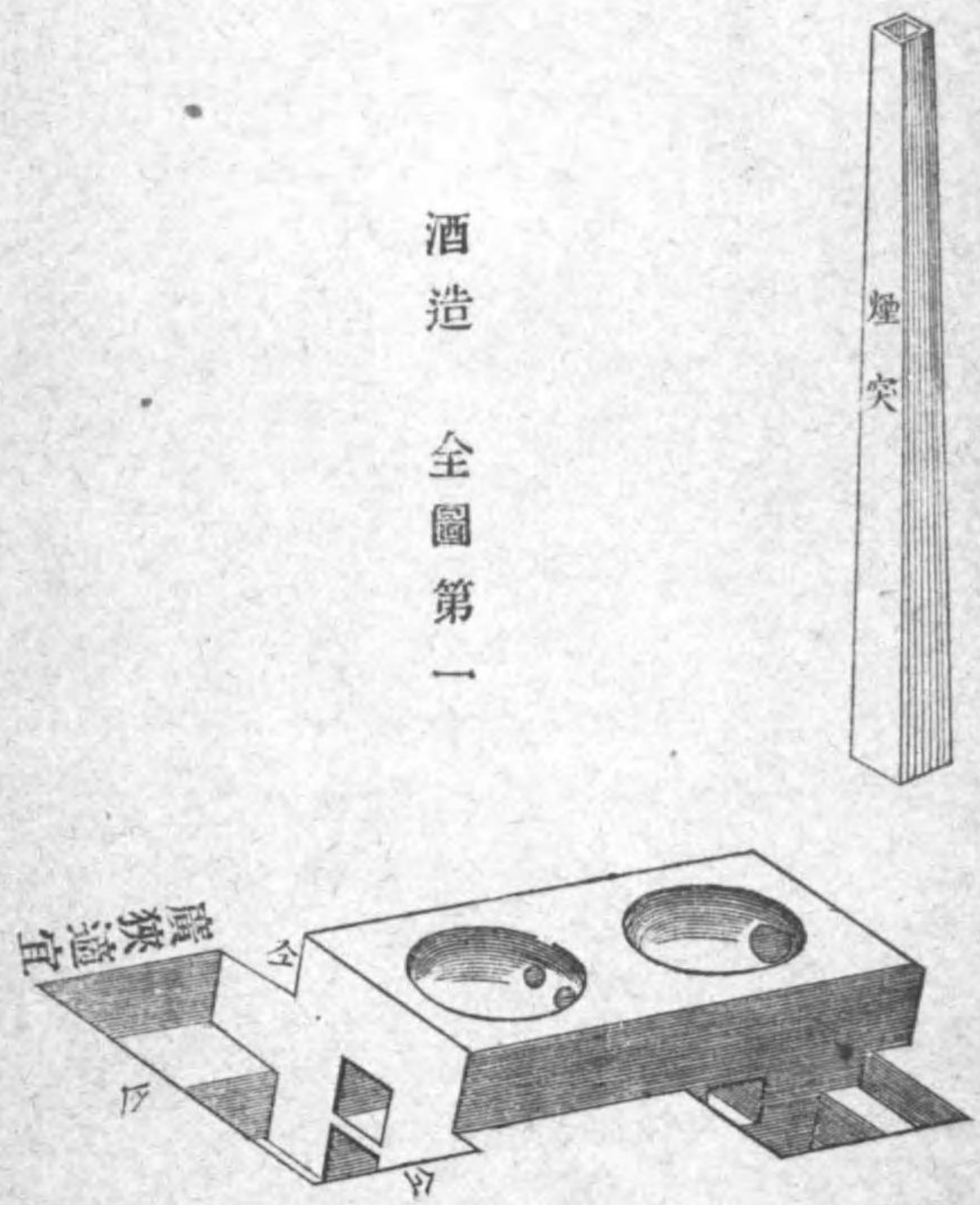


全第二

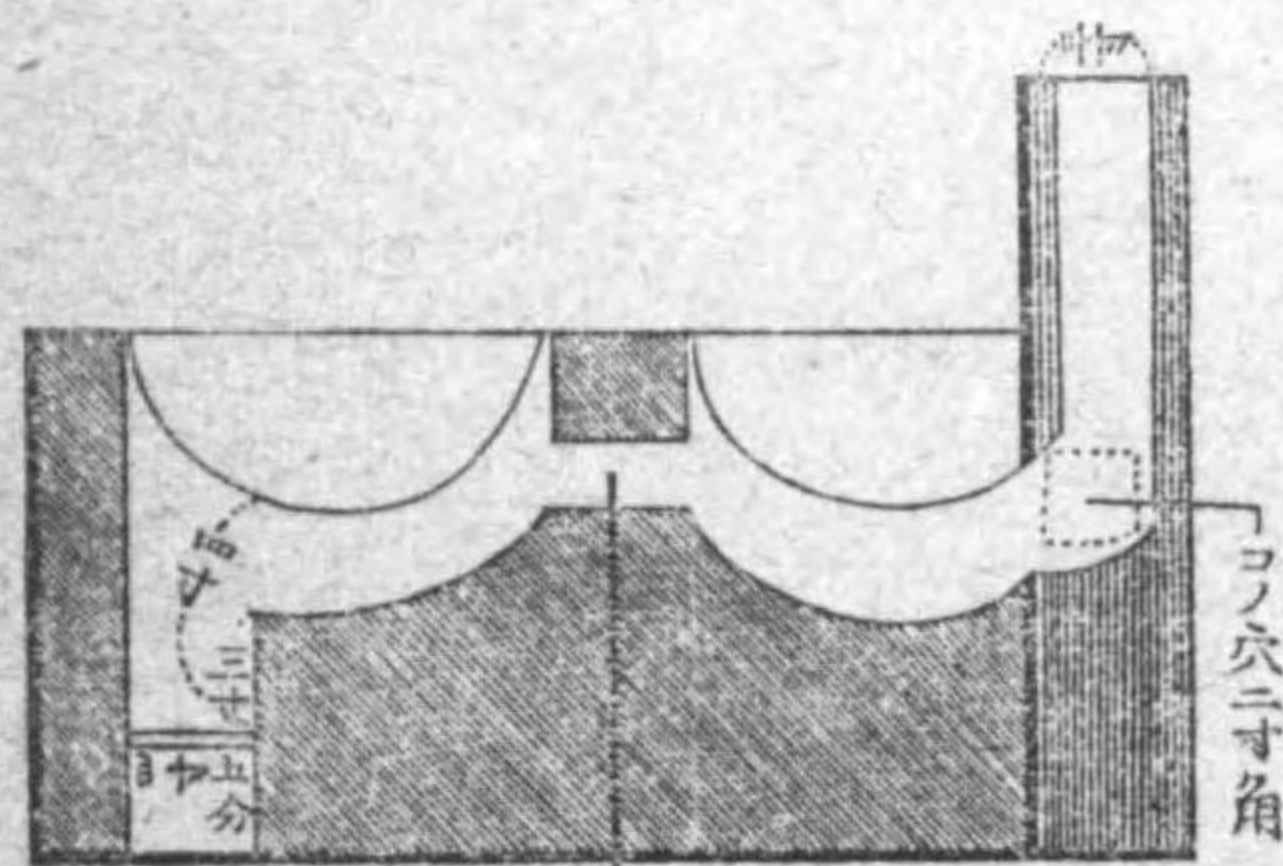
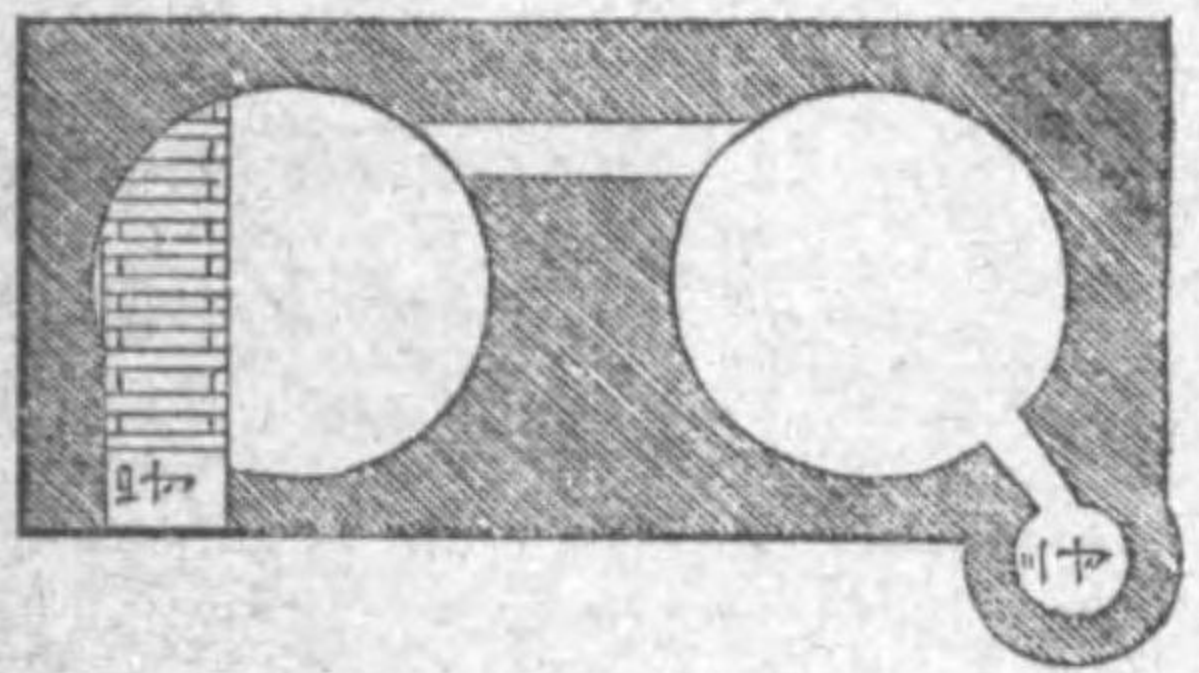
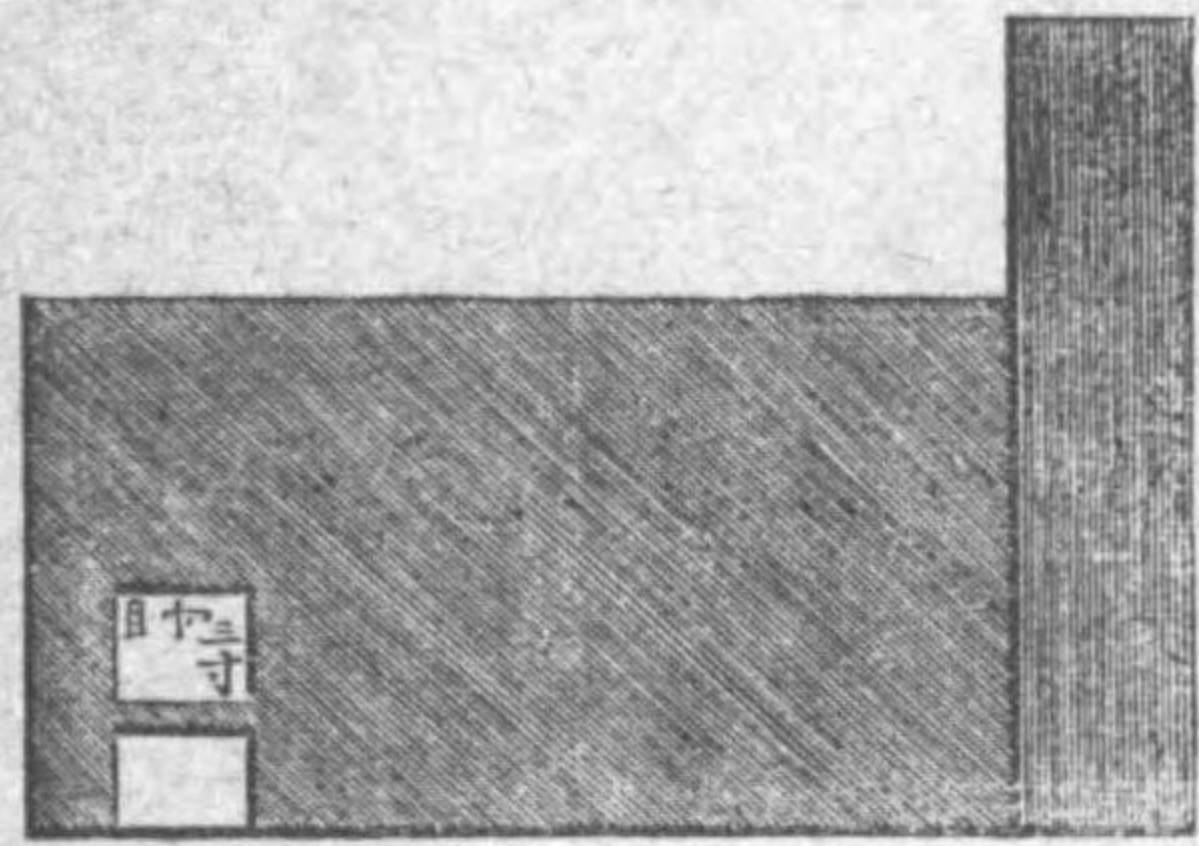


高寺文就尺

酒造 全圖第一



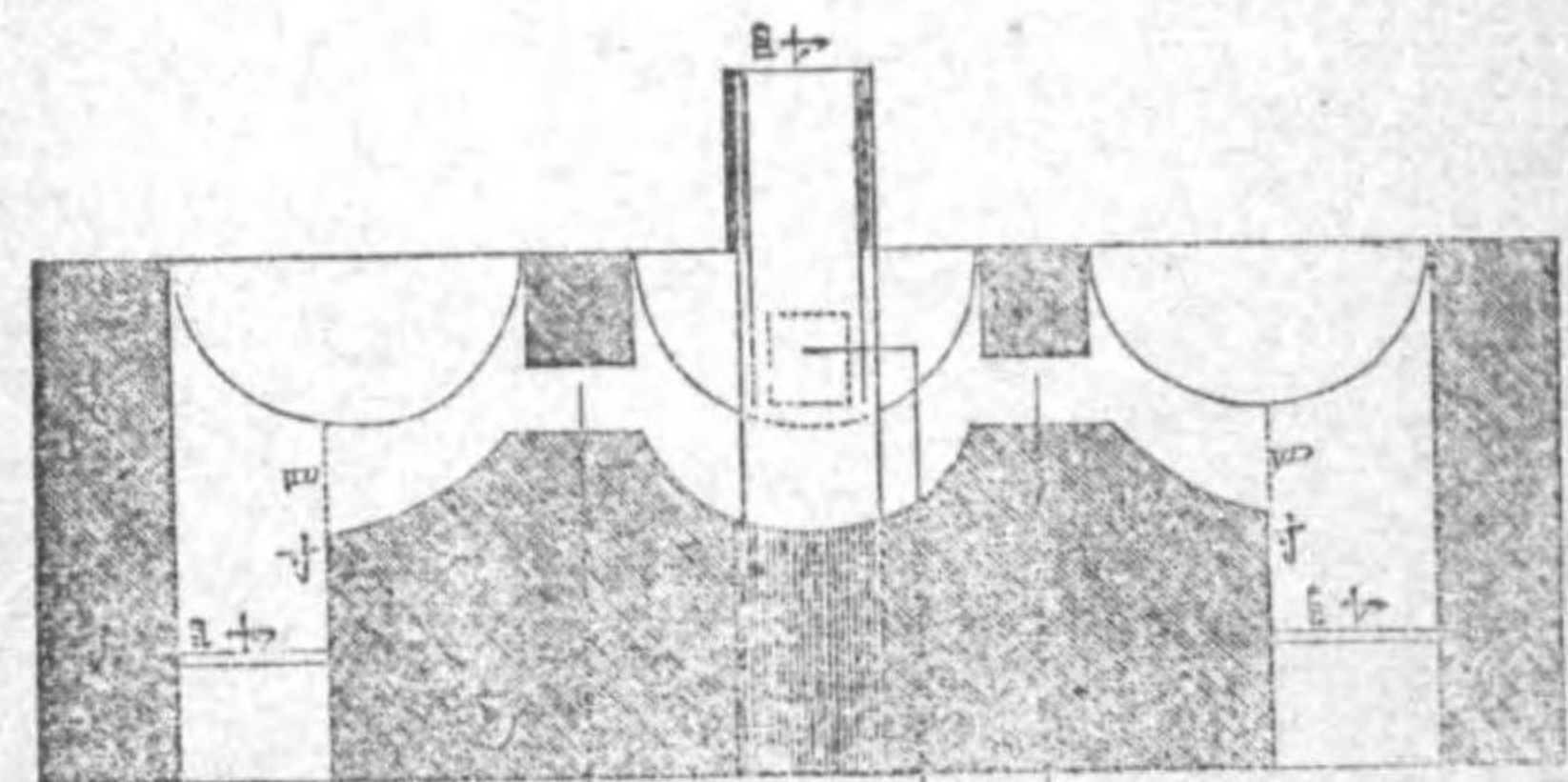
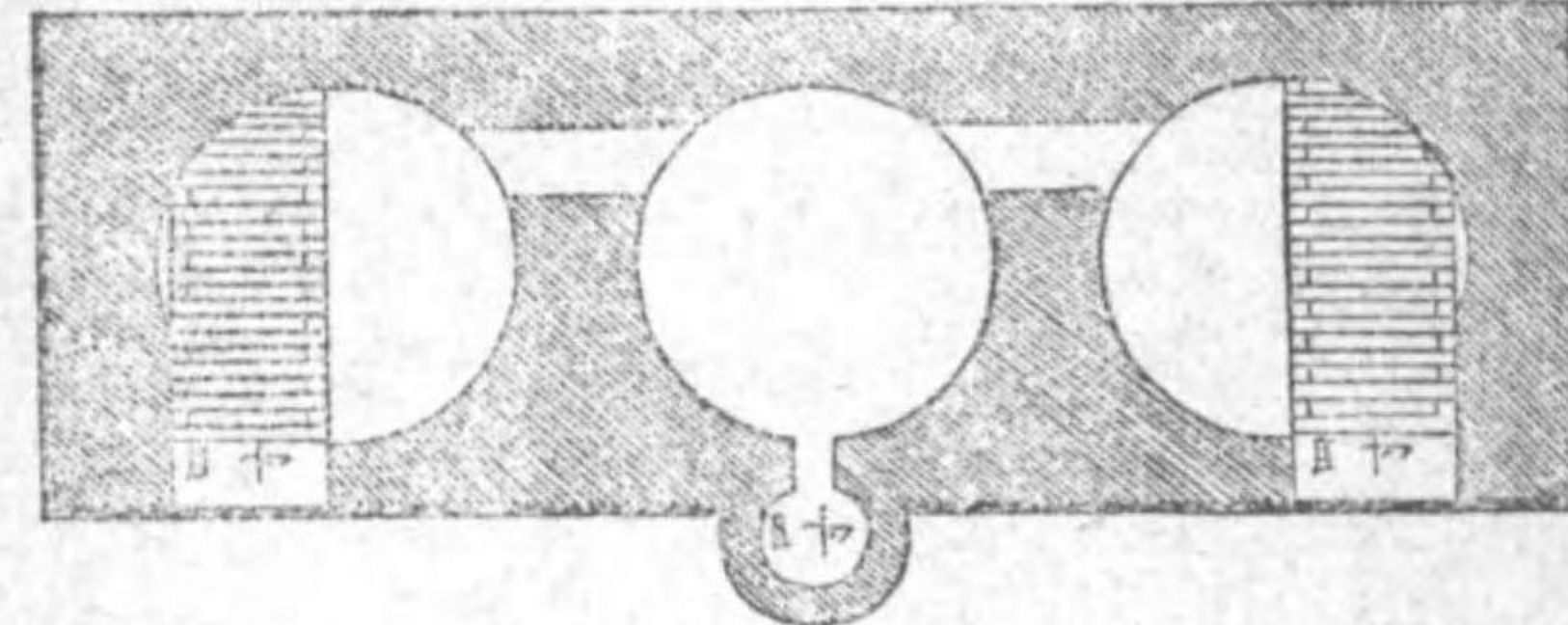
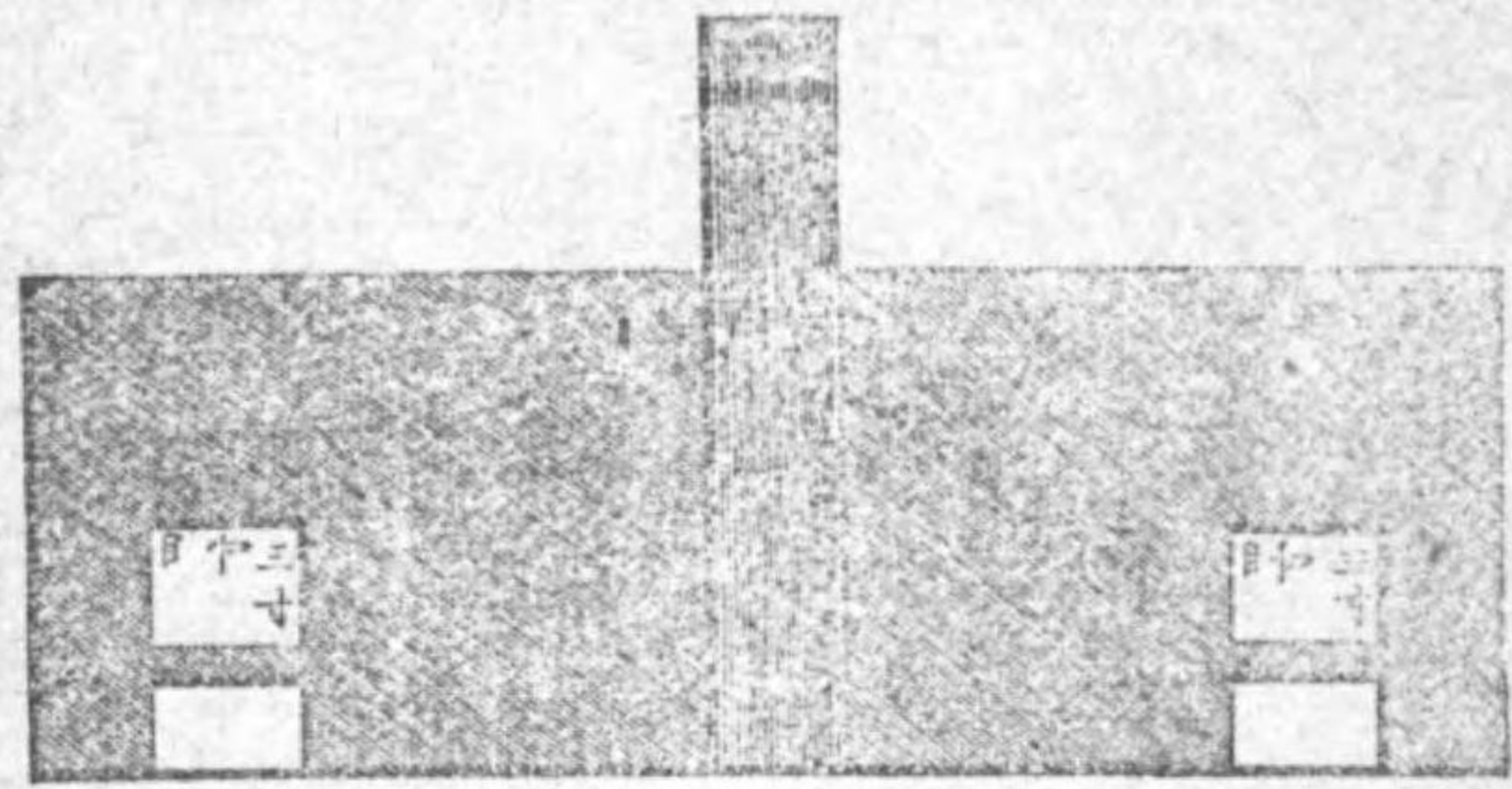
従来ノ竈ヲ以テ改良スル圖



コノ
巾二寸
高二寸
五分
穴

コノ穴二寸角

従来ノ三ツ竈ヲ以テ改良スル圖

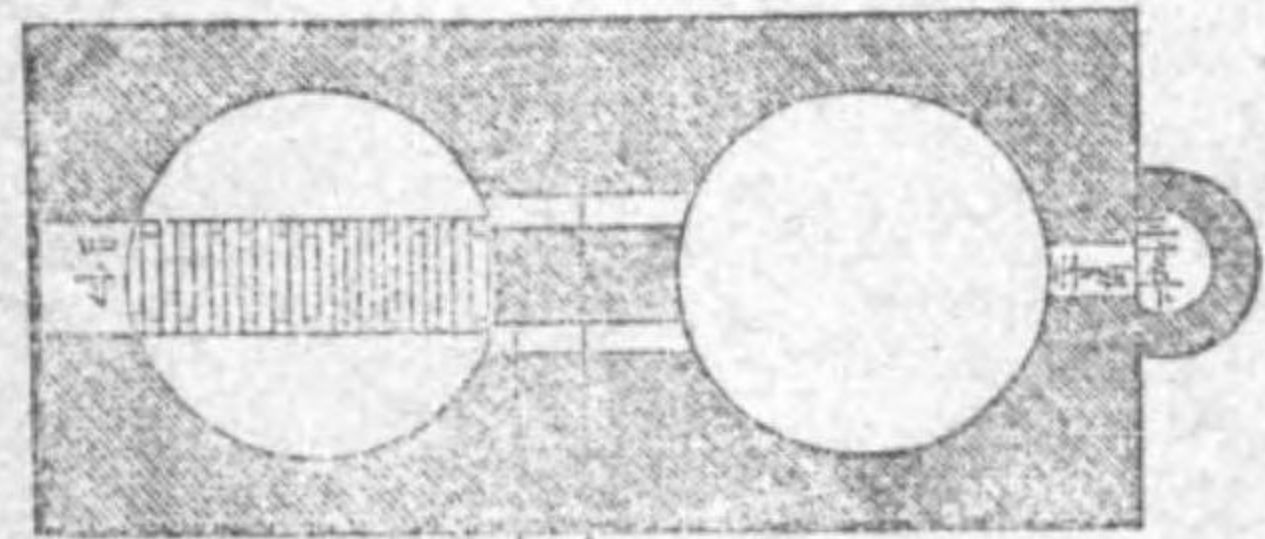
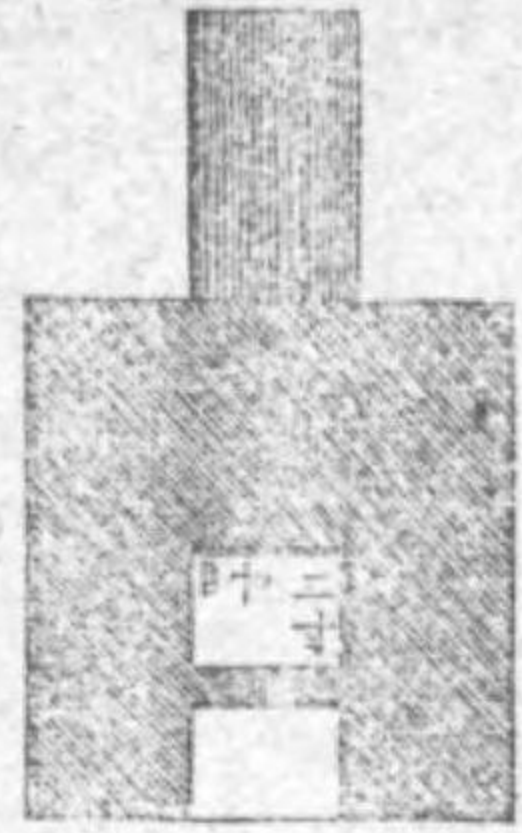


コノ
巾二寸
高二寸
五分
穴

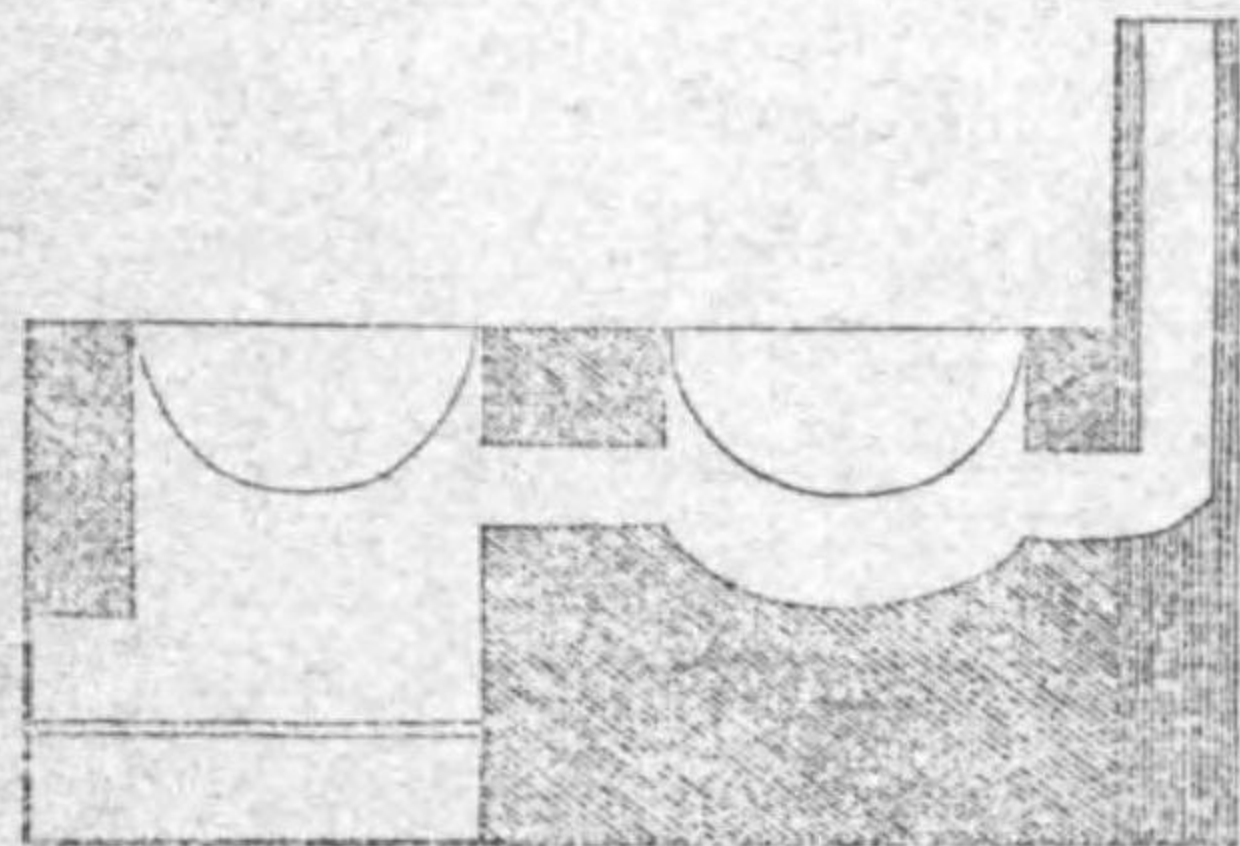
コノ
穴
二寸
五分
角

コノ
巾二寸
高二寸
五分
穴

新製スル圖



全 横一寸五下 豎二寸



丹羽 葉栗郡共進會概況

本會ハ尾張國丹羽葉栗兩郡ノ有志等開設スル所ノ繭生糸ノ會ニシテ明治十四年八月十九日ヨリ九月三日迄葉栗郡前飛保村曼陀羅寺ニ開クモノナリ其之ヲ開ク所以ノモノハ明治十四年ノ春該郡ノ有志等静岡綿糖繭糸茶ノ共進會ニ參觀シ大ニ感覺スル所アリ歸郡ノ日廣ク郡内ノ有志ニ譲リ繭金ヲ募リ以テ本會ヲ創設スル所ナリ而シテ多ク郡内ノ出品ヲ促シ傍ラ本縣下各郡區及三重岐阜山梨諸縣ニ良品ノ出陳ヲ求メダリ會場僻陬ナリト雖出品頗フル多ク參考品ヲ合セテ觀客日ニ踵ヲ絶タス郡中本業ニ従事スル五百六十八品ニ至ルマテ殆ント參觀セサルモノナシ此ニ於テカ人々各地ノ品種ヲ注視スルニ優劣精粗自カラ誣ユ

可カラサルモノアリ各自感悟止マス大ニ改良ノ精神ヲ揮
 ヒ便チ該會爾來生徒ヲ他方へ派遣シ或ハ蠶事熟練ノモノ
 ナ聘シ養法ヲ衆人ニ説カシメ或ハ良桑ヲ購買シテ繁殖ヲ
 圖リ孜孜勤メリト云願フニ該郡ハ養蠶製糸ノ行ハル、其
 來ルコ久シク寶ニ桑林郡中ニ涉リ家々蠶事ヲ業トス然ル
 ニ養法疎拙製糸亦精シカラス本縣之ヲ改良センコチ欲シ
 年來勸弊誘掖怠タルニ非レモ從來ノ陋習ニ安ンシ之ニ應
 スルモノ尠ナク亦如何トモスルナキカ如シ圖ラサリキ此
 一會ニシテ翻然固執ノ陋習ヲ脱シ進取ノ氣象此ノ如キノ
 影響ヲ與ヘントハ之レ偏ヘニ有志諸子ノ精神ノ到レルト
 措置ノ宜キトニ因ルナラン且ツ本會ハ當初數千ノ資金ヲ
 募リ其利金ヲ以テ會費ニ會費ニ充テ后年繼續開會セ

ノトスルモノナレハ該郡繭糸改良ノ功ヲ奏スルヤ今ヨリ
 一二回ノ開會ヲ經テ競争止マシムンハ終ニ其目的ヲ達スヘ
 ケン左ニ出品表等ヲ掲ケ其褒賞授與式及審査等ノ順序ハ
 暫ク之ヲ略ス

出品及褒賞人員表

部	之	繭	國名	郡區名	出品數	出品人員	褒賞人員
河	三	尾張	丹羽	一五一	一一一	二三	
北	額名	葉丹	栗羽	一一六	八八	二八	
北	額古	葉丹	栗羽	一五	一四	八	
設	田	樂	田	六	二	二	
樂	田	樂	田	六	五	四	
計				二九〇	二二〇	六五	

求ノ其性ヲ養フ能ハス又偶々樹林學者アルモ其學問ノ高尙ニ過キ實地ニ施シ易カラズ於是乎余ノ年來目撃經驗セシモノ就中其ノ成シ易キヲ主トシ以テ有志者ニ告ケントス

明治十四年十月

横山斗人編

苗圃

一苗床ノ土質ハ肥ヘス瘠セス中等ノ地味ニシテ砂石ヲ交ユルヲ宜シトス然レモ砂石多キニ過クレハ冬時ハ寒涼ノ爲ニ墳起シ易ク又夏時大旱ニ逢ヒテ水濕ヲ失ヒ易ク水ヲ與フルモ亦多量ヲ要シテ勞多シ
一苗圃ノ地相ハ西北ニ林丘ヲ負ヒ冬時寒風ヲ防キ東南ニ低下シ雨潦ノ憂ナキ地ヲ好トス然レモ餘リ傾下ニ過ク

レハ雨風ノ爲ニ樹實ヲ流散シ甚タシキハ肥土ヲ流失シ地位ヲ變スルニ至ル

俱泰西人ハ右地相ニ反シ東南ニ林丘ヲ負ヒ西北ニ傾下ノ地ヲ宜シト云フアリ然レモ本邦ノ如キ經緯度中ニアリテハ寒暑日陰等ノ害アリテ未タ其適當ナルヲ覺ヘス然レモ本邦最南熱度高キ地ハ或ハ適應ヲ得ルモノアラソ

一苗床ハ土ノ深サ貳尺ヲ起返シ能ク日光ニ曝シ畦ヲ東西長ク巾三尺ニ作ルヘシ最モ樹實ニヨリ深ク蒔クモノハ畦上四五寸淺キモノモ二三寸土ヲ細ニ篩ヒ之ヲ鍬ノウラニテ打チ固メ雨ニ流レサルヤウニスヘシ畦勉テ東西ニ作ルヘシ然ラサレハ日覆霜雪除テ作ルニ便ナラス

一日覆ハ光線ノ疎通スルヤウニシ霜雪ヲ防クハ稍々密ニ
 シ夏ハ南ヲ低クシ北ヲ高クシ冬ハ之ニ反シ北ヲ低クシ
 南ヲ高ク作ルヘシ
 一肥料ハ其樹ニヨリ濃肥ヲ要スルアルモ大概中等ノ地味
 ニハ肥料ヲ要セス或ハ水肥ノ薄キヲ用ユルモ妨ケス之
 ナ用ユルハ下種前凡三四十日前ニ用ユヘシ之ヲ床肥ト
 云
 一樹實ヲ蒔ク大粒ハ二三寸ノ深サ細土中ニ埋メ上ニ藁ヲ
 置クヘシ細粒ハ畦上平坦ノ上ニ撒播シ細土又ハ細砂ヲ
 置キ又剝糠ヲ置クヘシ世間往々糠ニ代フルニ藁ヲ以テ
 ス常ニ壓重發生ヲ害スル勢ナカラス又鋸木屑ヲ置クア
 リ木虱ヲ生シ跡地々味ヲ損害スト云

一苗木ハ翌年ヨリ年々移植ス樹實ニヨリ捫ノ如キハ一ケ
 年植ノ如キハ四五年其餘松杉檜等凡三ケ年ノ后林地へ
 移スヘシ都テ肥ニ過キス瘠ニ過キス又其年々移植スル
 ハ林地へ移シ萎縮枯槁ヲ防ク爲ナリ移植ニハ其鬆根ヲ
 傷メヌヤウニシ苗ノ短長ヲ分チテ植ユヘシ
 一苗木ハ下種ノ始ヨリ鳥獸ノ害多シ鳥ノ害ハ網ヲ張り案
 山子ヲ置キ鳴子ヲ作りテ防クヘシ獸害ハ四圍ヲ密ニシ
 防クヘシ或ハ水溝ヲ圍繞セシメハ完全ナリ然レモ尙左
 ニ掲クル虫獸ノ害アリ驅除方經驗セシモノヲ付ス
 蝮 蛄 除
 椿油粕一升ヲ細粉ニシ水一斗ヲ混和シ一晝夜ヲ經テ苗
 圃五坪ニ撒布スヘシ

但苗害ナシ

シクヲ除

鶏糞一升ヲ細粉ニシ水壹斗ニ混和シ已下前同

土龍子地鼠除

蒟蒻芋ノ皮又ハ其屑ヲ買ッテ床下ニ耕埋スヘシ

松苗並松林ヲ造ル法

一松實ヲ採ルニハ秋末月十良健ナル松樹ノ毬ヲ採リ能ク大

陽ニ曝シ乾シ子實ヲ出シテ陰乾ニシ布囊又ハ瓦瓶中ニ

貯藏シ翌春四月上旬苗圃又ハ林地ニ播種スヘシ

一松實ノ播種ハ上土ヲ細ニ均シテ平坪ニ七八合ノ種ヲ下

ロシ又其上ニ細土又ハ細砂ヲ置キ而シテ粉線ヲ土砂ノ

見ヘヌ程ニ置クヘシ

但該實發芽ノ時鳥雀ノ害アリ注意スヘシ

一松苗木初年ハ寒暑ノ覆ヲ作ルヘシ大旱ニハ毎夕水ヲ與

フヘシ二年目モ大暑大寒ニハ注意スヘシ

一松苗木翌春床替ハ苗ノ短長ヲ分チ凡ソ四五倍ノ地ニ移

植スヘシ其翌々春亦如此スヘシ

但發芽ノ時分前同様保護スヘシ

一松苗ヲ林地ニ植ユルニハ其根ヲ傷ヌヤウ床ヨリ掘取

リ又乾燥セヌヤウ濡藁ヲ以テ包ミ護送シ平地ハ一坪四

本畝岨ノ地ハ二三本其土ヲ開墾シテナルヘク整列植付

クヘシ爾后數年間ハ藤蔓長草ヲ刈リ十數年ニシテ手入

透伐スヘシ其後ノ養方ハ用材林ト薪炭林トノ區別アリ

用材林ハ幹ヲ養ヒ追テ悪木ヲ伐透シ良木ヲ作ルヘシ凡

ソ八十年ヲ伐採期トス薪炭林ハ枝ヲ養ヒ多ク伐透サス
凡二十年前後ニ用ユヘシ

一林地ニ實殖スルノ便法ハ其林地風向上位ニ實穂ノ付着
スル松枝ヲ挿シ置ケハ落賢風ノ爲ニ自ラ散播シ數年人
ノ出入ヲ禁スレハ自ラ松林ヲ造出スベシ

杉苗並杉林ヲ造ル法

一杉實ヲ採ルニハ秋末^{十月}良木ノ實穂ヲ採リ能ク大陽ニ曝
シ乾シ手ニテ揉ミ子實ヲ出シ陰乾ニシ松ト同法貯藏播
種スヘシ

一杉實ノ播種ハ上土ヲ細ニ均シ坪ニ五六合ヲ下ロシ其上
ニ土砂粉糠ヲ置ク松ト同クスヘシ
但該實ハ松ニ比スレハ鳥害少シ

一杉苗初年二年共寒暑ノ覆ヲ作ルヘシ大旱ニハ毎夕水ヲ
與フヘシ一回水ヲ與ヘテ又與ヘサレハ苗ノ大害トナル
故ニ降雨アル迄ハ續テ與フヘシ杉ハ天性水ヲ好ム故ニ
苗圃モ地ヲ撰ミテ下種スヘシ

一翌春床替ハ苗ノ短長ヲ分ケ凡初年五六箇ノ地ニ移植ス
ヘシ其翌春モ亦如此スヘシ

一林地ニ實植シ及苗ヲ林地ニ植ニ杉林ヲ造ルハ松ト異ナ
ラス但該樹ハ成長早ク凡三十年已上中等已下ノ建築材
ニ供スヘク薪炭用ニハ効用薄シ

一杉ハ樵條スヘシ其穂ヲ採リ穂ヲ挿ス等ノ法ハ左ニ掲出
ス凡初年ヨリ三ヶ年間雜草及藤蔓ヲ刈リ其後十二三年
ニシテ手入透伐シ又其後凡十年毎ニ透伐スヘシ五六十

年ノ後チ普通建築材ヲ得ヘシ
 一杉ハ都テ水氣アル地チ好ニ竹林チ起シタル地杯尤モ宜シク又林中竹チ交ユレハ相競フテ成長殊ニ宜シ
 已下次號

第二回内國勸業博覽會報告
 第二回博覽會各郡區出品一覽表

郡區	出品人員	出品點數	出品原價	賣却金高	賞牌員數
名古屋區	百十九人	九百二十八點	壹万六千五百八拾壹圓四厘	七千貳百五拾壹圓貳拾六錢八厘	四十三
愛知郡	二十八人	九十一點	貳百貳拾六圓六錢五厘	百拾五圓七拾九錢七厘	五
春日井郡	五十八人	二百十一點	八千三百九拾三圓四拾四錢九厘	千九百四拾六圓八拾七錢九厘	十八
丹羽郡	三十九人	九十二點	貳百拾壹圓拾九錢三厘	百五圓拾貳錢	三
中島郡	十九人	三十三點	百壹圓四拾四錢壹厘	四拾貳圓六拾錢	一

海東郡	二十八人	五拾點	千七百九拾七圓壹錢九厘	千九百九拾七圓壹錢九厘	十
知多郡	七十八人	二百二十五點	七百七拾三圓五拾七錢	五百六拾貳圓五錢八厘	十七
碧海郡	二十三人	五十四點	貳拾五圓五拾八錢貳厘	拾八圓七拾錢七厘	九
幡豆郡	七人	八十五點	三拾三圓六拾九錢八厘	貳拾七圓拾八錢壹厘	一
額田郡	五十人	百二十七點	四百六拾圓六拾五錢五厘	百三十貳圓貳拾六錢貳厘	六
加茂郡	五十四人	六十六點	三拾四圓七拾三錢六厘	拾八圓七拾三錢六厘	一
設樂郡	五十八人	百五點	九拾圓四拾九錢四厘	七拾壹圓貳拾四錢八厘	十一
寶飯郡	十人	十三點	拾壹圓七拾八錢	八圓九拾錢四厘	一
渥美郡	二十七人	四十八點	貳拾九圓五拾貳錢七厘	貳拾六圓八拾三錢五厘	三
八名郡	十三人	十五點	三拾四圓貳拾八錢六厘	三拾圓九拾九錢四厘	
合計	六百三人	二千七十三點	貳万八千八百四圓四拾九錢九厘	壹万五千五百五拾五圓六十錢八厘	百二十九

明治十年	增	三十九人	一万八千九百貳十三圓七十一錢貳厘	六千九百三十五圓七錢貳厘	二十
比較	減	二百九十五點			二十三

第一回博覽會各郡區出品一覽表

郡區	出品人員	出品點數	出品原價	賣却金高	賞牌員數
名古屋區	百九十六人	千五百七點	七千五百三十圓七厘	三千五百三十圓	八十二
愛知郡	十三人	十八點	十三圓十錢六厘	十二圓五十五錢三厘	三
春日井郡	九十八人	百九十三點	千五百貳十八圓七錢一厘	五百九十貳圓十錢四厘	十九
丹羽郡	八人	二十九點	十四圓八十貳錢七厘	十六圓九十五錢七厘	二
中島郡	十五人	二十四點	十九圓貳十九錢四厘	十七圓十七錢貳厘	一
海東郡	八人	十八點	五圓四十四錢七厘	四圓四十四錢一厘	
海西郡	八人	十八點	四十六圓三十一錢貳厘	四十八圓九十三錢二厘	六
知多郡	五十二人	百三十九點			

碧海郡	二十一人	四十一點	十貳圓十貳錢	四圓七十八錢四厘	六
幡豆郡	八人	十四點	四圓九十一錢四厘	四圓九十八錢	二
額田郡	四十二人	百八十二點	六百九圓貳十錢四厘	三百五圓八十七錢五厘	十四
加茂郡	二十九人	四十點	五圓貳十九錢	四圓九十三錢八厘	七
設樂郡	二十九人	四十點	五圓貳十九錢	四圓九十三錢八厘	五
寶飯郡	十四人	二十七點	貳十一圓八十八錢九厘	六圓八十七錢一厘	
渥美郡	二十七人	六十點	六十四圓四十六錢	三十一圓七十錢五厘	四
八名郡	四人	六點	五十五錢六厘	三十四圓貳十八錢六厘	一
合計	五百六十四人	二千三百六十八點	九千八百八十圓七十八錢七厘	四千六百貳十圓五十三錢六厘	百五十二

本會ノ盛大ナル其構造ノ宏壯裝飾ノ善美筆紙ノ尽ス可キ所ニ非ス今試ニ其一二ヲ舉ケン陳列館ノ地積七千五百

六十餘坪出品人員三万五千五百餘列品ノ數九万餘種ニシテ
 三十万余個アリ賣品代價無慮六十五万余圓ノ如キ是ナリ
 以テ其旺盛ナルヲ察スヘシ之レ
 政府獎勵ノ優渥ナルニ因ルト雖モ亦各業者カ憤競勇爭ノ
 結果ニ非ズンバ焉ソ此盛舉ヲ見ルヲ得ソ然リ而シテ本
 縣出品ノ員類等前表ニ掲記スル如ク之ヲ第一ノ會ニ比ス
 レハ出品人員ニ於テ三十九人ヲ増シ列品數ニ於テ三百三
 十九點ヲ減シ原價ニ於テ壹万八千九百二十圓余ヲ増シ受
 賞人ニ於テ二十三人ヲ減セリ此出品人員ト原價ノ増シ品
 數ノ減シタルハ總テ之レ各業者ガ該會ノ眞趣ヲ辨知シ偏
 ニ精功品有用物ヲ撰ヒ叨リニ粗拙ノ物品ヲ出サ、ルニ因
 ルナラシム其受賞人ノ減セシハ他ナシ本會審査ノ精密褒賞

ノ貴重ナル前會ニ幾層ヲ加ヘタルニ因ルナルヘシ然リト
 雖本縣出品ニ對スル褒賞ハ名譽賞牌一二等進步賞牌一一
 等有功賞牌三 一等協賛賞狀一 三等進步賞牌三 二等
 有功賞牌六 三等妙技賞牌二 三等有功賞牌廿五 三等
 協賛賞牌一 褒狀八十八ニシテ最モ優等ヲ占メタルガ如
 シ亦以本縣下各業者ガ意ヲ殖産ノ途ニ注キ進步ノ效ヲ見
 ルニ足レリ而シテ物品ノ褒賞ヲ受ケタル所ノ薦告文ハ已
 ニ本誌前号ニ掲ケタリト雖猶各物品ニ於テ公衆カ評論ス
 ル所ノ耳朶ニ落ルモノト需用者ノ多寡如何ヲ記載シ以テ
 各業者ノ參考ニ供セントス
 磁器 瀨戶加藤勘四郎ノ衝立 高二尺五寸 八直立燒成シ兩面
 釉藥ヲ施セシハ頗ル新按ナリ 花壇 巾三尺六寸 長一丈二尺 最モ巨大ニ

シテ普通陶工ノ焼成ヲ難ンズル所ナリ共ニ佳評ヲ得タ
 リ聞ク衛立ノ如キハ明治十年ノ會ニ參觀シ獨リ感スル
 所アリ爾來茲ニ着意シ五ヶ年間苦心焦慮ヲ積ミ遂ニ此
 結果ヲ得タリト加藤繁十ノ白磁珈琲具製造良好ナリ之
 ナ製スルニ方リ其空足ニ釉藥ヲ施サンガ爲俯セ焼ニナ
 シ其口縁ヲ研磨シ金彩ニテ之ヲ補セシハ殊ニ新按ナリ
 巨壺高四尺一雙モ紋様鮮麗ナリ共ニ佳賞多シ川本半助
 ノ黒釉ハ艶美愛ス可シ聞ク歐州有名ノ製陶所ニ於テス
 ラ未タ曾テ斯ノ如キ精良ナルモノヲ製出セシヲナシト
 之レ亦多年辛苦ヲ積ミ得タル所ナリ宜ナルカナ此三工
 共ニ進歩ノ賞ヲ得ルヤ又半助ガ白花ヲ堆積セシ茶壺其
 他見ルヘキモノ多シ惜ヒ哉出陳其期ニ後レ審査ヲ受ケ

ザリシハ

同村川本樹吉ノ白磁ニ白描ノ紋章アル花瓶及ヒ各種ノ
 色泥ヲ以紋様ヲ挿嵌シタル花瓶共ニ製造ノ優致見ルモ
 ノナシテ新且奇ト呼ハシメタリ此花瓶ハ自己ノ新按ニ
 テ心思ト工力ヲ費ス尠少ナラス實ニ色泥挿嵌ノ花瓶一
 雙ニ百二十余工ヲ用ヒタリ加藤五助青磁ノ花瓶青華ノ
 酒器鮮麗愛翫ニ堪ヘタリ眞ニ樹吉ハ伎倆卓出五助ハ小
 器ニ老鍊ノ名ニ負カズ
 同村加藤奎左工門ノ如キハ該地方陶工中ノ巨擘ニシテ
 殊ニ大器ノ製造ニ長シ第一ノ會ニ於テハ龍紋ノ賞ヲ受
 ケタルモノナリ然ルニ本會出品ノ石菖盆水鉢ノ類大ハ
 大ナリト雖モ不幸ニ焼成十分ナラズ隨テ其伎倆ヲ顯ス

ヲ得サリシハ遺憾ト云フヘシ
磁器錦彩 名古屋區七寶會社黒地金描山水ノ花瓶羽重ヲ
十二稜古模様ノ花瓶ヲ始メ五七種ハ風韻ノ愛スヘキア
リ且該社ハ殊ニ製額多ク販路廣キヲ以テ有功ノ賞ヲ得
タリ同區原不二夫ノ花瓶ニ古代ノ貨幣ヲ描キ年代ニ應
シ其彩色ヲ異ニセシハ意匠ノ密ニシテ高尙ナル佳評少
ナカラズ且ツ不二夫ハ舊名古屋藩士族ナリシガ夙ニ世
態ノ變遷ニ應シ舊同族ト議リ本業及ヒ七寶燒ヲ興シ以
テ自他ノ便益ヲ與フル勢カラス尋常一工手ノ比ニ非ル
ナリ之レ亦有功ノ賞ヲ得ル所以ナリ
本業ノ本縣ニ起リタル未タ久シカラズ第一ノ會ニ於テ
ハ岡崎驛永樂窯高須吉次郎ノ出品ノミニテ其他ハ縣廳

ニ於テ數箇ノ小器ヲ蒐集シテ出陳スルニ過ギス然ルニ
纔ニ五ヶ年間ヲ經テ此ノ如キニ至ル進步ノ跡顯著ナリ
ト云フヘシ茲ニ第一ノ會ニ褒賞ヲ得タル吉次郎ハ不幸
ニシテ其業ヲ繼續スル能ハザルハ遺憾ナリ 已下次号

虫類名稱

近來各地方出害報告中往々虫名ヲ詳記セサルモノアリテ
質疑應答ノ間徒ラニ時日ヲ費スナカラス故ニ農務局
ニ於テ質問應答ノ便ヲ圖リ姑ク虫類ノ部門ヲ定メ今後何
部何(虫名)或ハ何部類似何(虫名)ト記シ併セテ土地ノ方言ヲ
モ報道スヘキ旨同局ヨリ照會アリ依テ左ニ其部門ヲ掲ク

部門

無翅部

蚤、虱、蠅等

甲翅部

金龜子、コカキムシ 天牛、カミキリムシ 叩頭虫及鱗蠶等コメツキムシ スクモムシ

膜翅部

蜂、ハチ 蟻、アリ 鏑花娘子等バムラノムシ

直翅部

蝻、ハツタ 螞蟓、カマキリ 蟋蟀等コホロキ

鱗翅部

蝶、テフ 蛾及其蠹、ヒイル 螟、シムシ 蠹、ケムシ 尺蠖等シヤクトリムシ

半翅部

蚜、アブラムシ 椿象、ホフ 蟬、セミ 浮塵子等ウツシカ

雙翅部

蠅、ハイ 虻、アブ 蚊等カ

右ノ外、ヘビ 蛇、カマズ 蛙、カニ 蟹、ミ 蛭、ノ 蛆、ム 蜈蚣、カテ 蛞蝓、ナイフジ 蝸牛、カスガムリ 蜘蛛等ハ各單
ニ其名ヲ稱スヘシ

稻刈採期節

明治十四年春東京農談會ニ於テ愛媛縣久米與平ノ曰ク稻刈採ノ事ニ付テハ多年經驗シテ發明セシヨアリ闇夜ニ際シテ苜採レハ一段歩ニ付一斗七升許ノ増額ヲ得之ヲ種料

トスレハ翌年収穫ノ期一週日モ早ク且ツ虫害少ナシトス此說ハ本縣ヨリ該會ニ列ナリタル水越理三郎小木曾一家祖父江九平治ノ三名モ該會中ニ於テ勝レテ耳新ラシク覺ユル所ナリ未タ之ヲ實際經驗セサル所ナレモ其理左モコソト思フコアリ何トナレハ月夜ニ蟹腸ノ空虚ナル穴蜂ノ子ノ甚ナキ例モアレハナリト云ヘリ

明治十三年十月十八日 出板届

愛知縣

終

不發賣